大人用

# 伝 道 地 便 り

## 2025 年第 4 期　南アメリカ支部


第 1 話「アマゾンの希望」　ブラジル

第２話「船の上の見知らぬ者」　ブラジル

第３話「光と声」　ブラジル

第４話「神のオンラインの呼びかけ」　チリ

第５話「エクアドルでの冒険」　チリ

第６話「予期せぬ宣教者たち」　チリ



ADVENTIST MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団　伝道局　安息日学校部

# 伝道地便りの用い方の ヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

１）前もって何度か目を通し、自信を持って読む。

２）棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。

３）伝える時間はできるだけ短く。長くても５～７分。

４）だれが、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。

５）できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。

６）時には、スキット（寸劇）風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。
主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」
紹介しましょう。

# アマゾンの希望　ブラジル

カッシ牧師

牧師の中には教会に隣接する牧師館に住んでいる人がいます。また、自分が奉仕する教会から離れた場所に家を購入したり、賃貸に住んだりする牧師もいます。カッシ牧師は、教会の機能を兼ね備えた船に住んでいます。

カッシ牧師の水上教会は、2016 年第一期に世界中から集められた第 13 回献金によって購入されました。多くの方のご支援により、カッシ牧師はアマゾン川沿いの奥地の村に住む、福音をまだ知らない人々に伝道することができるようになりました。

カッシ牧師と「アマゾンの希望」と名付けられた水上教会の活動をご紹介します。

船が村に到着すると、カッシ牧師は家々を訪問し、人々と会い、信頼を得て、友人になろうとします。最初の数日は困難です。カッシ牧師はよそ者であり、誰も彼を知らないからです。彼の最初の訪問先は､村の指導者たちの家です。彼らの支援は､カッシ牧師の滞在を成功させる上で重要な役割を果たす可能性があるからです。そして彼は、指導者たちを含め、すべての住民を船に招き、水上教会の内部を見学してもらいます。

船での最初の集会は盛大なパーティーです。カッシ牧師夫妻は、クリスチャン音楽、食事、そして賞品の抽選会を含む特別なプログラムを企画します。賞品には台所用品、扇風機、サッカーボールなどがあります。パーティーでカッシ牧師は、聖書に基づいた感動的なメッセージを伝え、毎晩行われる聖書セミナーに参加するよう人々を招待します。最初の週の集会は、結婚、子育て、健康などに関するテーマを扱います。2 週目からは、25 から 30 日間にわたる聖書研究が始まります。日中は、カッシ牧師と彼のチームが料理、ギター演奏、歌のレッスンを提供します。医師と歯科医も村を訪れ、無料の治療を行います。

カッシ牧師が彼らの生活を向上させたいという真摯な願いを持ってやって来たことを理解した人々は、毎晩のように集会に参加するようになります。水上教会の礼拝堂の収容人数は、約 150 人です。

船が村に到着してから最初の 1 ヶ月の間に、セブンスデー・アドベンチストの教会堂の建設工事が始まります。通常、教会は 30 日から 50 日で建てられます。教区によって雇われた建設作業員が、村まで船で移動し、教会を建設するのです。

聖書研究が終了すると、カッシ牧師は参加者に、バプテスマを受けてイエスに心をささげるよう呼びかけます。

カッシ牧師が最初の村人にバプテスマを授ける頃には、新しい教会堂は、通常礼拝者を受け入れる準備が整っています。

そのあと、すべての礼拝やそのほかの集会は、水上教会　から新しく建てられた教会堂へと移されます。

それから、カッシ牧師は新しい教会員の弟子訓練に熱心に取り組みます。イエスが彼らのために何をしてくださったのかを、ほかの人々と分かち合うよう励まします。家庭訪問や聖書研究を続け、彼らの信仰を強めるために力を注ぎます。また、新しい教会員は、新しい教会を運営し、安息日に安息日学校や礼拝、また日曜日と水曜日の夜に行われる祈祷会

を組織するための訓練を受けます。

カッシ牧師と水上教会は、村に５ヶ月間滞在します。そのあと、新しい教会は常任する牧師に引き継がれ、カッシ牧師が始めた働きが継続されます。水上教会は、かつては１年に２つ以上の村を訪問していましたが、教会指導者たちは、各村の人々を育成するためにもっと時間をかける必要があることに気づき、現在のスタイルになりました。

２つの村で 10 ヶ月を過ごした後、カッシ牧師と水上教会は残りの２ヶ月（12 月と１月）を、マナウスという主要な河川港で過ごします。そこで船はメンテナンスを受け、カッシ牧師は教会指導者たちと共に、翌年訪れる村の選定などを含めた伝道計画を立てます。また、休暇も取ります。

カッシ牧師夫妻は２年間で４つの集落に４つの教会を設立し、合計 174 人がバプテスマを受けました。

「一人ひとりにそれぞれの物語があります」と、カッシ牧師は水上教会でのインタビューで語っています。「しかし、神は私たちに特別な人々を送り、ご自身の特別な方法で導いておられるのです」

「アマゾンの希望」と名付けられた水上教会は、2016 年の 13 回献金のおかげで、多くの人々に希望をもたらしています。今期のブラジルとチリでの 13 回献金のプロジェクトを、祈りと献金で支えてくださりありがとうございます。共に、イエスの再臨の良き知らせを広めるために働きましょう。

〈お話のヒント〉

- 南米とブラジルを地図で示してください。次に、アマゾン川とネグロ川で福音を広める際に母港となるマナウスを示してください。
- カッシ牧師と水上教会の短いYouTube動画はこちら。bit.ly/Cassi-SAD.
- 今回のお話の写真をFacebookからダウンロードしてください。bit.ly/fb-mq.

**宣教メモ**

- 南米支部の神学校であるラテンアメリカ・アドベンチスト神学校はブラジルにあります。
- ブラジルを初めて訪れたセブンスデー・アドベンチストは、1892年8月にリオデジャネイロで数週間滞在したL.C.チャドウィックです。
- 1893年5月、最初のアドベンチストの文書伝道者、アルバート・B・シュタウファーがブラジルに到着しました。シュタウファーは、ポルトガル語の出版物がなかったため、ドイツ語と英語の書籍を販売しました。
- 1900年、ギルヘルメ・スタイン・ジュニアが、リオデジャネイロで最初の宣教雑誌「O Arauto da Verdade（真実の使徒）」を発行しました。

# 船の上の見知らぬ者　ブラジル

ジャミリー

見知らぬ人が家の外にあらわれて、「こんにちは！」と声を掛けてきた時、ジャミリーは少し怖く感じました。

ブラジル・アマゾン川沿いの奥地の村では、見知らぬ人が家に来ることは珍しいことだったからです。

両親は外出中でした。20 歳のジャミリーは、4 歳の弟と共に家にいました。

見知らぬ人は、セブンスデーアドベンチスト教会のカッシ牧師と名乗り、ジャミリーの生活について尋ねました。

「ご両親との関係はどうですか」と、彼は言いました。

「あまり良くないんです」と、ジャミリーは答えました。

話しているうちに、彼女は落ち着いてきました。不安が消えるとジャミリーは、泣き出しました。両親ともっと仲が良ければよかったのに、と彼女は言いました。

そのあと、カッシ牧師は「水上教会の一員になりませんか。私たちの集会に参加しませんか」と、誘いました。

ジャミリーは村に大きな白い船が到着したのを見ていました。彼女は、別のキリスト教派の医師や看護師が無料の医療サービスを提供するためにやって来たものだと思っていました。

しかし今、その船がカッシ牧師とそのチームの住まいであり、セブンスデー・アドベンチスト教会が集会を行なっているところでもあることがわかりました。カッシ牧師は家々を回り、人々と親しくなって、船で行われる集会に招待していたのです。

ジャミリーは水上教会に行くことに同意しました。すると、彼女は再び激しく泣き出しました。2 年前に離婚した両親との難しい関係を思い出したからです。

カッシ牧師は彼女の話に耳を傾け、慰め、励まし、希望の言葉をかけてくれました。

ジャミリーの涙は止まりませんでした。牧師は一緒に祈ろうと提案しました。

その日から、ジャミリーは両親のために祈り始めました。彼女は毎晩、水上教会に通い、家族関係、健康、そして聖書に関する講演を聞くのを楽しみました。

彼女は母親を一緒に行くように誘い、母親も同行しました。

約 1 ヶ月後、ジャミリーはバプテスマを受けてイエスに心をささげました。それは彼女の人生で最もすばらしい日でした！　彼女と彼女の罪はアマゾン川の水の中に葬られ、キリストにあって新しく生まれた子どもとして、水から上がりました。その日、ほかの村人たちも何人かバプテスマを受けました。

バプテスマのあと、集会は水上教会から村に新しく建てられたアドベンチスト教会堂に移りました。建設作業員たちは、ジャミリーやほかの村人たちが船で集会を行なっている間に、その教会堂を建てていたのです。

ジャミリーは新しい教会堂での安息日礼拝に出席しました。日曜日の夜と水曜日の夜に行われる祈祷会にも出席しました。彼女は、イエスが自分たちのために何をしてくださったのかをほかの人々と分かち合うことを教える、新しい教会員のための弟子訓練プログラムにも参加しました。

しかし、ジャミリーと両親との関係は改善されないように思えました。母親は船が去ったあと、教会に行かなくなりました。父親は一度も教会には行きませんでした。両親との間の緊張は高まりましたが、ジャミリーは祈り続けました。

ある日、父親は村のアドベンチスト教会を訪れました。ジャミリーはその知らせを旅行中で家を離れていた時に聞きました。友人が携帯電話で教えてくれたのです。ジャミリーは飛び上がって喜びました！　彼女は、神が自分の祈りを聞いてくださっていることを確信しました。また、神が家族をご自身のもとへ引き寄せてくださっていることも確信しました。

ジャミリーのバプテスマから 1 年が経ち、彼女は、1 年間宣教活動に従事する教会のプログラム、「One Year in Mission」に参加するための準備をしています。カッシ牧師が彼女の村に福音を伝えたように、彼女はブラジルやそれ以外の人々に福音を伝えたいと願っています。

「主に仕えるという夢をあきらめないでください」と、彼女は語ります。

2016 年の 13 回献金の支援を受けた水上教会は、アマゾン川沿いに住むジャミリーのような人々に希望をもたらしています。今期のブラジルとチリでの 13 回献金のプロジェクトを、祈りと献金で支えてくださりありがとうございます。共に、イエスの再臨の希望を分かち合いましょう。

〈お話のヒント〉

- 南米とブラジルを地図で示してください。次に、マナウス（Manaus）という町を示してください。そこに水上教会の母港があります。アマゾン川とネグロ川で福音を伝えていないときは、この港に帰港します。
- ジャミリーと水上教会の短いYouTube動画はこちら。bit.ly/Jamilly-SAD.
- 今回のお話の写真をFacebookからダウンロードしてください。bit.ly/fb-mq.

**宣教メモ**

- 1700年代の半ばまで、ブラジル最大の輸出品はサトウキビ糖であり、最大の輸入品はサトウキビ農園で働くアフリカ人奴隷でした。
- 1500年から1800年の間に、ブラジルはアフリカから280万人を超える奴隷を購入しました。
- 1807年、ポルトガルの王室はヨーロッパの戦争のため、ポルトガルからリオデジャネイロに移転しました。1821年まで王室はブラジルに滞在しました。
- 1800年代、ブラジルはまず王国となり、そのあと、ポルトガル王の息子を皇帝とするブラジル帝国となりました。最終的に、1889年に独立国となりました。
- ブラジルは世界第5位の広さを誇る国で、総面積は3,287,956平方マイル（8,515,767 $km^2$）です。
- 北から南までの距離が2,731マイル（4,395 km）に及び、ブラジルは世界で最も南北に長い国です。
- ブラジルは世界で最も多様な生物性を有し、動植物の種の70％以上（約400万種）が生息しています。

# 光と声

ブラジル

アンドリエラ

その家は期待できそうにありませんでした。

アンドリエラは、ブラジルでコロナの規制が解除され始めた頃、キリスト教の書籍を販売するために家々を回っていました。ある屋敷の前に立った時、彼女の勇気は消え去りました。その家は、高い壁に囲まれた大邸宅で、壁の向こう側を見ることはできませんでした。しかし、鉄格子の門の向こうに、高い堂々とした木々に囲まれた玄関が見えました。

アンドリエラはそこから立ち去りたいと思いました。しかし、彼女の心は、門のドアベルを鳴らすように強く促されました。

彼女は、その強い感情を拒むことも無視することもできませんでした。

「わかりました、主よ、行きます」と、彼女は言いました。「ドアベルを３回鳴らします。でも、誰も出てこなければ立ち去ります。それで私の役目は果たしたことになるでしょう。」

彼女はドアベルを鳴らしました。

反応はありませんでした。

彼女は再びドアベルを鳴らしました。

反応はありませんでした。

３回目にドアベルを鳴らすと、屋敷のドアが少し開きました。そこには小柄な白髪の女性が立っていました。

アンドリエラはその女性に、門まで来てくれるよう合図しました。

彼女は、その女性が自分を家の中に入れることはないだろうと思っていました。コロナに感染することを恐れて、誰も家に訪問者を招きたがらなかったからです。

女性は門越しにアンドリエラをじっと見つめました。そして門を開け、手招きしました。

「どうぞ、中へ」と、彼女は言いました。

彼女は何も質問しませんでした。ただ一言、そう言っただけでした。

アンドリエラが屋敷の中に入り、その女性の名前がハイディであることを知りました。彼女は退職した教師で、夫は市内に多くの不動産を所有する裕福な地主でした。

アンドリエラは自己紹介し、本を売っていると言いました。

ハイディが関心を示したので、彼女は贖いの物語を最初から最後まで語りました。

「罪がこの世界に侵入したあと、キリストは肉体を取って、私たちの間に住われました」と、彼女は言いました。「彼は人として、あらゆる悪の中で生きるために来られました。彼がなさったことによって、私たちは永遠の命を得ることができます。間もなく、彼は雲に乗って来られ、私たちを天に連れて行ってくださいます。そこには、もはや痛みも苦しみも死もありません。私は本当に、本当にキリストと共に生きたいのです。あなたもそこにいてほしい。天であなたにお会いしたいのです」

ハイディは泣き始めました。そして、自分の物語を語り始めました。

「あなたがドアベルを鳴らした時、私はあなたを入れたくなかったんです」と、彼女は言いました。「で

も、ドアから外を見た時、あなたの周りに光が輝いていて、『彼女を家に入れなさい』という声が聞こえたんです。私は知らない人を家に入れることは決してありません。門を開けることもしません。でも、あの光とあの声があったから、あなたを中に入れたんです」

ハイディは希望のない厳しい人生について語りました。彼女は裕福であるにもかかわらず、愛や平和、喜びが欠けていました。彼女は自殺を試みたことが4回あり、そのたびに息子が止めたと言いました。

その時、アンドリエラは、ドアベルを鳴らすように促したのは神であるということを確信しました。

彼女はハイディに言いました。「神様が私をここに送られたのです。神様は私があなたに福音を伝え、あなたが再び希望を持つことを願っておられるのです。」

その日から、二人は良い友人になりました。

それは、ハイディが初めて、神が彼女を愛し、彼女が神のために生きるように望んでおられることを知った日でした。

13回献金を通して、ブラジルで多くの人々がイエスの再臨に備えたいと願うようお祈りください。今期の献金の一部は、アンドリエラが住むブラジルのペルナンブカーノ・アドベンチスト・アカデミーの学生のための教会を建てるのに用いられます。この重要な希望のプロジェクトのために、皆様の惜しみない献金をありがとうございます。

〈お話のヒント〉

- 地図でブラジルを示してください。
- 今回のお話の写真をFacebookからダウンロードしてください。bit.ly/fb-mq.
- 現在、27歳のアンドリエラは、宣教看護師として、イエスが間もなく来られるという福音を伝えるために、フィリピンのパラワン島へ行く準備をしています。

### 宣教メモ

- ブラジルにはアマゾン熱帯雨林の60%が広がっています。
- ブラジルのアマゾン熱帯雨林の20%以上が完全に破壊され、大西洋岸森林の約93%が伐採によって消失しています。
- ブラジルで絶滅の危機に瀕している202種の動物のうち、171種が大西洋岸森林に生息しています。
- ブラジルの料理は地域によって大きく異なり、先住民と移民の多様な文化を反映しています。
- リオデジャネイロでは、毎年3月の最初の週に世界最大のカーニバルが開催され、数百万人が参加します。
- リオデジャネイロの観光名所には、ビーチのほかに、世界新七不思議の一つに数えられるコルコバード山頂の巨大な、救世主キリスト像があります。
- アマゾン川はブラジルを流れ、北アフリカのナイル川に次ぐ世界第2位の長さを誇る川です。
- ブラジルは南米大陸の東側に巨大な三角形を形成し、大西洋に沿って4,500マイル（7,400キロメートル）の海岸線を有しています。チリとエクアドルを除く大陸内の国々とはすべて国境を接しています。

# 神のオンラインの呼びかけ　チリ

サムエル

チリの大学に通うサムエルは、なぜ自分がいくつかの単位を落としてしまったのか理解できませんでした。彼は、高校時代は常に成績が良かったのです。しかし、大学の最初の学期で、電気技術者の資格を取得するために必須な代数学、微積分学、物理学、化学の単位をすべて落としてしまったのです。

２学期も状況は改善しませんでした。そして、期末試験の準備をしていた時、彼は奇妙なメッセージを受け取りました。

ある親戚が、ソーシャルメディアの投稿に、「サムエル、神学を学びなさい」と書き込んだのです。その投稿は、牧師感謝月間にアドベンチストの牧師たちに感謝のメッセージを送る掲示板に書き込まれました。

サムエルはメッセージが突然すぎると感じました。親戚は彼に挨拶もせず、様子を尋ねることもしなかったからです。

彼は､「こんにちは！元気ですか」と返信しました。

親戚は、「元気です。神学を学びなさい」と返しました。

サムエルが牧師になるよう提案されたのは初めてではありませんでした。彼はいつもと同じように返答しました。

「教会員を訪問し、説教し、教会のために働くために神学を学ぶ必要はないよ」「しかし、主が私を召されるなら、喜んで従います」と、書きました。

親戚は、「祈りなさい」と返しました。

サムエルは祈ることに同意し、実際に祈りました。

期末試験に向かう途中、彼は空を見上げて言いました。「主よ、あなたなのですか。本当にあなたが私を召しておられるのですか。もしあなたが私を召しておられるなら、私は拒絶したくありません。あなたが本当に私を召しておられるのか、その確信を得させてください。自分の考えでなく、あなたの御心に従いたいのです。プランＡがうまくいかなかったから、プランＢにするような、自分の考えであってはならないのです」。

専攻を変更することは、すべてを捨てることを意味しました。それはエンジニアとしてのキャリアを捨て、故郷から遠く離れたチリ・アドベンチスト大学へ移り、両親を失望させる可能性もありました。

その時、サムエルはアブラハムが神に従ったことを思い出しました。弟子たちがイエスに従ったことも思い出しました。また、イエスを拒んだ人々のことも思い出しました。イエスに、まず両親に別れを言わせてくださいとか、まず相続を受けることを優先させてくださいと言った人々のことも思い出しました。彼はイエスを拒んだ人々のようにはなりたくありませんでした。

サムエルは祈り続けました。

祈り始めてから３週目に、サムエルに転機が訪れました。彼は、バプテスマを受けた際、自分が選んだその場で読まれる聖句を思い出しました。なぜか、彼はチリでバプテスマを受ける際に、一般的に読まれる聖句を選びませんでした。当時、マタイによる福音書を学んでいた彼は、その 28 章 19、20 節を選んだのです。イエスはこう言われました。「だ

から、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」。この聖句を思い巡らすうちに、サムエルは、神が自分を牧師として召されていることをこの聖句が示しているように思いました。

サムエルはまた自分の名前のことも思い出しました。聖書の中のサムエルの両親のように、彼の両親も子どもを授かることができませんでした。母親と結婚する前、父親は精巣がんを患い、危うく死にそうになりましたが、医師が精巣を摘出することで一命を取り留めました。

そのため、医師は彼に子供は授からないだろうと告げました。しかし、神には別の計画がありました。

結婚後、サムエルの両親は子どもを授かるようにと祈り、子どもが生まれると、その子に「神は聞いてくださった」という意味のサムエルという名前をつけました。両親は、神のために用いられるようサムエルを神におささげしました。

サムエルは、自分の奇跡的な誕生と、バプテスマのために選んだ聖句を思い出し、祈りました。「主よ、私はあなたの召しを受け入れます。今、両親と話すのを助けてください」

サムエルの母親はすぐにその決断を歓迎しました。

「工学はあなたには合っていないとわかっていたわ」と、彼女は言いました。

しかし父親は葛藤しました。彼は息子がエンジニアになることを願っていたからです。すでにエンジニアになるために莫大な費用を費やしていました。サムエルにはチリ・アドベンチスト大学に在学している妹がおり、サムエルがいなくなれば実家は寂しくなってしまうでしょう。

しかしそれでも最終的に父親は、神がサムエルを神学の勉強に召されていることを受け入れました。

サムエルは大学を借金なしで辞めることができ、授業が始まる1週間前にチリ・アドベンチスト大学に受け入れられました。神学を学ぶよう勧めた親戚は大喜びでした！

現在、サムエルは21歳で、チリ・アドベンチスト大学で牧師になるための勉強をしています。

「神が私に与えてくださった召命に、本当に感謝しています」「神が私をどこに召しても、私は従う覚悟です」と、彼は言います。

今期の13回献金の一部は、チリ・チランのチリ・アドベンチスト大学のために用いられます。この献金によって、さらに50人の学生がキャンパス内の寮で生活できるようになります。現在、同大学には約3,000人の学生が在籍していますが、そのほとんどはアドベンチストではなく、キャンパス外に住んでいます。拡張される学生寮はすべての人に開放されますが、特に遠方から大学に来てアドベンチスト教会や学校で働くために神学や教育を学ぶアドベンチストの学生たちにとって必要とされています。サムエルは、この献金で拡張される寮の一つに住んでいます。皆様の寛大なご支援を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 地図で南米とチリのチランを示してください。
- サムエルの短いYouTube動画はこちらでご覧ください。bit.ly/Samuel-SAD.
- 今回のお話の写真をFacebookからダウンロードしてください。bit.ly/fb-mq.

**宣教メモ**

- チリで最初のアドベンチストは、フランスで改宗し、1885年にチリに移住したクロード・デシネットとその妻でした。

# エクアドルでの冒険

チリ

マリア

マリアは、妹のエンジェルが肝臓癌から回復したあとに、新たな信仰の道を歩み始めました。彼女は、セブンスデー・アドベンチスト教会の人々が信じる神が祈りに応えてくださったと信じ、家族と共にアドベンチスト教会の教会員になりました。

しかし、教会員になっただけでは満足できませんでした。神は彼女のために多くのことをしてくださったので、彼女は神のためにもっと多くのことをしたいと考えたのです。

マリアはチリでソーシャルワーカーとして、恵まれない子どもたちの支援をしていました。働きがいのある仕事で、良い収入があり、良い友人たちにも恵まれていました。

ある日、ひとりの友人が「宣教師として働くために別の国に移住してみませんか」と、マリアに提案しました。

友人は、アドベンチストの世界的な宣教師ボランティア・プログラムである、「アドベンチスト・ボランティア・サービス」(AVS)への参加を勧めました。

その後、マリアはアドベンチストの青年会に参加し、説教者が宣教師の募集を呼びかけるのを聞きました。

マリアは拒むことができませんでした。彼女は祈りました。「私がここにおります。主よ、私を遣わしてください。」

マリアはエクアドルでアドベンチスト・ボランティア・サービスの一員として１年間奉仕することになりました。彼女はソーシャルワーカーの経験を生かし、エクアドル第４の都市サント・ドミンゴにあるアドベンチストの学校で、子どもたちのカウンセリングや授業を担当することになりました。

最初、マリアは新しい国での生活に慣れるのに苦労しました。両親と２人の姉妹をひどく恋しく思いました。

また、周囲の環境に適応するのにも苦労しました。エクアドルとチリは同じ南米大陸にありながら、まるで別世界のようでした。例えば、エクアドルの食事は美味しかったものの、まったく異なっていました。チリでは、朝食はヨーグルト、パン、紅茶、果物など軽いものでした。一方、エクアドルの朝食は米、豆、揚げたバナナ（プランテン）が中心でした。チリ出身の宣教師にとって、エクアドルの朝食は昼食のようなボリュームでした。

さらに、蚊にも苦労しました。蚊はどこにでもいるようでした。マリアは蚊よけスプレーを使いましたが、効果はありませんでした。体中を蚊に刺されました。

気候も違いました。マリアはチリの暑く乾燥した夏と寒い冬に慣れていたのですが、エクアドルは常に熱帯気候で、湿度が高く、雨も多いのです。

しかし数週間が経つと、マリアは新しい環境に慣れ、学校で神に仕えることを心から楽しめるようになりました。

学校に通う多くの子どもたちは、サチラ族と呼ばれる先住民の出身です。サチラとは、「真の人々」という意味があります。先住民の男性は髪を赤茶色に染め、黒と白の横縞のスカートを着用していまし

た。女性は鮮やかな色の横縞のスカートを着用していました。

子どもたちは学校だけでなく、教会のパスファインダー・クラブでもイエスについて学びました。そして、家に帰って、聞いたことを親に伝えました。マリアは、学校での活動を通して、子どもたちと親が神に近づいていくのを見て、驚きました。

マリアの活動は教えることだけにとどまりませんでした。彼女は毎週アルコール依存症のリハビリセンターを訪問する教会の活動に参加しました。センターで彼女は、聖書の勉強会を開き、人々とゲームをしました。その中の何人かがバプテスマを受けてイエスに心をささげました。

マリアはまた、定期的に児童養護施設を訪問し、聖書の物語を語り、子どもたちと一緒に劇を演じました。

1年が経つ頃になると、マリアは、自分が持っていなかった霊的な賜物を神が明らかにしてくださったことに、驚きました。彼女は、教えることを通して人々の心を動かす賜物を持っていることは理解していましたが、励ましを通して人々の心を動かす賜物を持っていることは気づいていませんでした（ローマ人への手紙12章6～8節参照）。彼女は常に内気でしたが、今では学校やそれ以外の場所で神について話すことができるようになりました。彼女はさまざまな教会で個人的な証しを分かち合いました。肝臓癌で病床に伏す妹の命を救うよう神に祈った時のことを語りました。神が祈りに応えてくださり、彼女と家族がアドベンチスト教会に加わった様子を話しました。マリアは、自分のシンプルな証しが聖霊の助けによって人々の心を変えることができることに、驚きました。

1年間の宣教期間が終わることは、辛いことでした。マリアは宣教地を離れたくありませんでした。しかし、そのあと、彼女は新しい宣教地を見つけました。チリに戻ると、彼女はチリ・アドベンチスト大学で学生カウンセラー兼教師として奉仕する誘いを受けたのです。彼女は喜びました！

「エクアドルで宣教を成し遂げ、今はここが私の宣教地です」と、彼女は言います。

今期の13回献金の一部は、マリアが教えるチリ・アドベンチスト大学のために用いられます。同大学では、毎年30人の宣教師を世界各地に派遣するアドベンチスト・ボランティア・サービス・センターを開設することを計画しています。センターには宣教師を養成するための5つの教室と250席の講堂が設けられます。皆様の惜しみない献金をありがとうございます。

〈お話のヒント〉

・南米とチリのチランを地図で示してください。
・今回のお話の写真をFacebookからダウンロードしてください。bit.ly/fb-mq.

**宣教メモ**

- チリで最も有名な詩人はパブロ・ネルーダ（1904-1973）で、彼は1971年にノーベル文学賞を受賞しました。彼がチリで所有していた3つの自宅（イスラ・ネグラ、サンティアゴ、バルパライソ）は現在博物館となっています。
- チリは、南米大陸の西海岸にある、太平洋とアンデス山脈に挟まれた細長い国です。
- チリの公用語はスペイン語です。

# 予期せぬ宣教師たち

チリ

アルバロ、ナタリア、カタリナ

アルバロとナタリアは、遠い島で宣教師になるとは夢にも思っていませんでした。

二人はチリで9年間、幸せな結婚生活を送っていました。アルバロはセブンスデー・アドベンチスト教会の歯科医として、ナタリアはチリ・アドベンチスト大学の理学療法士として働いていました。そして二人には、3歳になる娘、カタリナがいました。

ある日、二人は「アドベンチスト・ボランティア・サービス」（AVS）に関する説教を聞きました。それは、アドベンチストの教会員がボランティアとして参加し、アドベンチスト教会の使命である、世界中に福音を伝えるという活動を支援する組織です。二人は、神が自分たちをボランティアに召しておられると感じました。

「家族でこの働きができるだろうか」と、アルバロとナタリアは互いに尋ねました。

二人は、参加するためには年を取りすぎているように感じました。アドベンチスト・ボランティア・サービスに参加するのは、大学生や20代の若者だけのようでした。アルバロとナタリアはどちらも35歳でした。

二人は、説教で宣教師になるよう呼びかけていた大学の牧師に相談しました。牧師は、神はあらゆる年齢の人々を宣教師として召されることを彼らに伝えました。そこで、二人は大学でボランティアの研修を受け、アドベンチスト教会のウェブサイト「VividFaith.org」でボランティアの募集情報を検索しました。彼らは、遠く離れた火山島であるイースター島で1年間奉仕するボランティアの募集に惹かれ、応募しました。

数日後、二人は採用されたという知らせを受け、2週間後にイースター島へ出発するよう求められました。二人は、神が祈りに応えてくださった速さに驚かされました。これが宣教師としての彼らの最初の教訓でした。二人は、神がすべてを支配しておられることを悟り、自分たちは神のご計画に従う必要があることを学んだのです。

2週間後、一家は飛行機に乗り、5時間半かけてイースター島へ向かいました。そして、世界で最も孤立した場所と言われる空港に到着しました。その空港は、最も近い空港から約2,350マイル（3,780キロメートル）離れていました。

家族を待っていたのは、まったく異なる文化でした。チリ本土ではローマ・カトリックの影響が強く見られますが、島の人々は先祖代々の教えに頼っていました。

チリ本土では誰もがスペイン語を話していましたが、島では誰もがラパヌイ語を話していました。

アルバロとナタリアは、南北に約2,650マイル（4,265キロメートル）と世界で最も長い国の一つであるチリ本土で、閉塞感を感じたことはありませんでした。しかし、イースター島の面積はわずか63平方マイル（101平方キロメートル）で、3,800人の住民の大部分は首都ハンガ・ロアに住んでいました。

チリ本土では食料に困ることはありませんでしたが、島ではパンは配給制でした。時には小麦粉が不足することがありました。食料は船で運ばれてきましたが、潮の満ち引きによっては船が着岸できないこともあったのです。

さらに問題がありました。二人はすぐに、島民の多くが本土の人間を嫌っていることを知りました。そのため、友人を作ることも、人々の信頼を得ることも困難だったのです。

神がいかに速く自分たちをこの島に導いてくださったかを思い出し、アルバロとナタリアは神を信頼し、神の御手にすべてをゆだねることを決心しました。

すると神は驚くべき方法で働き始めました。

アルバロは歯科医ではなく、観光業に就きました。より多くの人々と出会い、セブンスデー・アドベンチスト教会を宣伝するためです。ナタリアは地元の病院で働き始めました。二人は小型のバイクを購入し、家々を訪問し、聖書の勉強会を開きました。

二人はまた、赴任当時、10 人の高齢の教会員しかいなかった地元のアドベンチスト教会の指導も担当しました。その年、アルバロとナタリアはバプテスマ式と結婚式の司式以外、牧師が行うあらゆることを行いました。彼らは葬儀も執り行いました。

教会で働きながら、二人は、かつて行われていたパスファインダーとアドベンチャー・クラブを再開しました。最初の集会に約 25 人の子どもたちが集まり、彼らは喜びました。月日が経つにつれ、子どもの数は増え続けました。二人は地元の「マスターガイド」を訓練し、パスファインダーとアドベンチャー・クラブを彼らの手に委ねました。彼らが去る頃には、2 つのクラブに 95 人の子どもが在籍し、子どもたちは安息日に両親を教会に連れてくるようになっていました。1 人のパスファインダーとその母親がバプテスマを受けました。牧師が飛行機で島に来て、バプテスマ式を執り行いました。

アルバロとナタリアは、挑戦的な一年だったものの、たとえやり直せるとしても、同じ道を選ぶだろうと、語ります。

「神様のおかげで、今では島の教会に地元の指導者がいて、パスファインダーとアドベンチャー・クラブは継続して運営されています」「私たちは、私たちがそこにいた 1 年間に、神様が多くのことを成し遂げてくださったと信じています。神様が道を開いてくださったのです」と、ナタリアは言います。

アルバロ、ナタリア、カタリナは、チリ・アドベンチスト大学で説教を聞き、ボランティアの訓練を受けたあと、イースター島で 1 年間アドベンチスト・ボランティア・サービスの宣教師として奉仕しました。今期の 13 回献金の一部は、大学にアドベンチスト・ボランティア・サービスセンターを開設し、さらに多くの宣教師を訓練するために用いられます。このプロジェクトへのご支援に感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 南米とチリを地図で示してください。次にイースター島を示してください。
- 短いYouTube動画でカタリナを見てみましょう。bit.ly/Catalina-SAD.
- 今回のお話の写真をFacebookからダウンロードしてください。bit.ly/fb-mq.

**宣教メモ**

- チリから西へ2,200マイル（3,540キロメートル）離れた場所に、イースター島（ラパ・ヌイ）があります。この島は三角形をしており、長さ14マイル（23キロメートル）、幅7マイル（11キロメートル）で、面積は63平方マイル（163平方キロメートル）です。
- イースター島は、1050年から1680年ごろに建造された600体を超える巨大な石像（モアイ）で有名です。多くの像は10から20フィート（3から6メートル）の高さがありますが、現在も残る最大の像の高さは約37フィート（11メートル）です。